

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	生命科学総論
科目基礎情報						
科目番号	4M021			科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	機械工学科			対象学年	4	
開設期	前期			週時間数	2	
教科書/教材	教科書なし, 参考書: 生命科学の基礎 (野島博著, 東京化学同人) (ほか)					
担当教員	宮越 俊一					
到達目標						
1) 生体を構成する成分について理解できる。 2) 細胞とエネルギー代謝の仕組みの概要を理解できる。 3) 遺伝子とその働きについて理解するとともに, バイオテクノロジーと社会とのかかわりについても理解できる。 4) 生命の環境に対する応答と調節の仕組みの概要を理解できる。 5) 地球の環境や歴史との関連の中での生命について理解するとともに, 環境問題について考えることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	生体を構成する成分とその構成単位, 結合などについて理解している。		生体を構成する成分とその構成単位について理解している。		生体を構成する成分とその構成単位について理解していない。	
評価項目2	酵素とATPの構造と働き, 呼吸と光合成についてATPの産生と関連づけて理解している。		酵素とATPの構造と働き, 呼吸と光合成について基本的なメカニズムを理解している。		酵素とATPの構造と働き, 呼吸と光合成について基本的なメカニズムが理解できていない。	
評価項目3	遺伝子の本体であるDNAとタンパク質合成について理解するとともに, それを応用したバイオテクノロジーについても実例で理解している。		遺伝子の本体であるDNAとタンパク質合成について理解するとともに, それを応用したバイオテクノロジーについても基本的な部分を理解している。		遺伝子の本体であるDNAとタンパク質合成, 及びその応用技術について, 説明できない。	
評価項目4	恒常性に関係した細胞内情報伝達, ホルモンや神経による制御, 免疫について理解している。		恒常性に関係した細胞内情報伝達とホルモンなどとの関係について理解している。		恒常性に関係した細胞内情報伝達とホルモンなどとの関係について説明できない。	
評価項目5	地球の歴史と生命の進化の概略ついて理解するとともに, 環境問題を把握し, 対策についても考えることができる。		地球の歴史と生命の進化の概略ついて理解するとともに, 環境問題について理解している。		地球の歴史と生命の進化の概略ついて説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	地球の環境や歴史との関連の中での生命について理解する。生命のしくみや成り立ちを分子のレベルをはじめ, 細胞, 個体その他のレベルで学習する。バイオテクノロジーの基礎と応用, 社会的影響について学習する。					
授業の進め方・方法	S-103教室またはそれに準じた大教室で, 他学科と合同で授業を行う。原則として毎回配布するプリントと板書を軸に, 必要に応じプロジェクト等を活用して進める					
注意点	生命の歴史とその巧妙な仕組みを理解するとともに, それを応用した技術について日常の暮らしや社会との関連の中で理解して, 何かを感じてほしい。 授業に出席して, レポート等は忘れずに提出すること。授業に関連した質問なら, 話の途中でも歓迎する。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	生命科学序説		最近の生命科学に関する話題から, 食・健康・環境とバイオ, バイオと他の科学技術について関心を持つ。	
		2週	生命の生い立ちとひろがり		地球の歴史と生命の進化について, その概略を理解できる。	
		3週	生体を構成する分子(1)		水とその特性, 生体を構成する主な元素について理解できる。タンパク質の構造とその構成成分のアミノ酸について理解できる。	
		4週	生体を構成する分子(2)		糖質, 脂質についてその構成成分や結合, 性質について理解できる。	
		5週	エネルギーを獲得するしくみ (1)		酵素とその働き, 代謝と生体のエネルギー通貨ATPについて理解できる。	
		6週	エネルギーを獲得するしくみ (2)		好氣的代謝である呼吸に関し, 解糖系やミトコンドリアで進行する諸経路について, 概略を理解できる。	
		7週	エネルギーを獲得するしくみ (3)		好氣的な呼吸について全体を理解し, 生物がエネルギーを得る仕組みを理解できる。光合成について理解できる。	
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	生体を構成する分子(3)		遺伝子の本体としてのDNAとその構造について理解できる。	
		10週	遺伝子とその働き (1)		遺伝子複製のしくみからタンパク質合成について理解できる。	
		11週	遺伝子とその働き (2)		セントラルドグマについて理解できる。ゲノムについて理解するとともに, 遺伝子の発現と調節, 分子レベルで見た変異や進化について理解できる。	
		12週	暮らしの中のバイオ(1)		遺伝子組み換えとはどのような技術か, その基礎について理解できる。	
		13週	暮らしの中のバイオ(2)		医薬品製造から遺伝子組換え作物, 遺伝子組換え動物と再生医療について理解できる。	

		14週	生物の恒常性と細胞内シグナル伝達			生物の恒常性と細胞内シグナル伝達について、ホルモンや神経とのかかわりから理解できる。	
		15週	生物の多様性			生物の多様性とその保全、活用の可能性について理解できる。	
		16週	定期試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	10	0	10	0	0	100
基礎的能力	40	5	0	5	0	0	50
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	20	5	0	5	0	0	30